

プログラム

大会長講演 (J)

2026 年 7 月 24 日 (金) 13:40 ~ 14:00 第 1 会場

座長：山口 照英 (日本薬科大学 薬学部 / 国立医薬品食品衛生研究所 衛生微生物部)

- PL. Development of Next-Generation Recombinant Adenovirus Products
水口 裕之 (大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野)

理事長講演 (J)

2026 年 7 月 23 日 (木) 10:40 ~ 11:00 第 1 会場

座長：森下 竜一 (大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学)

- CL. JSGCT '4+4' Initiatives: 社会へ開かれた学会へ
米満 吉和 (九州大学 大学院薬学研究院 バイオ医薬創成学)

大会長特別企画セミナー (J)

2026 年 7 月 25 日 (土) 12:35 ~ 13:25 第 1 会場

座長：水口 裕之 (大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野)

- SS. アナウンサーが 伝える時に使う技
有働 由美子 (アナウンサー)

特別講演 1 (E)

2026 年 7 月 23 日 (木) 14:15 ~ 15:05 第 1 会場

座長：水口 裕之 (大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野)
衛藤 義勝 (脳神経疾患研究所先端医療研究センター・遺伝病研究所)

- SL1. Beyond the Membrane: Why Different AAV Capsids Lead to Different Outcomes
Mark A. Kay (Dennis Farrey Family Professor, Departments of Pediatrics and Genetics, Stanford University)

特別講演 2 (E)

2026 年 7 月 23 日 (木) 16:10 ~ 16:55 第 1 会場

座長：望月 秀樹 (独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター)
齋藤 竜太 (名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科)

- SL2. Current Clinical Gene Therapy Trials in Parkinson's and Alzheimer's Disease Utilizing Growth Factors
Krystof Bankiewicz (The Ohio State University, AskBio Therapeutics, Columbus Ohio, USA)

特別講演 3 (E)

2026 年 7 月 25 日 (土) 14:25 ~ 15:10 第 1 会場

座長：山本 正人 (ミネソタ大学 外科)
笠原 典之 (University of California, San Francisco)

- SL3. Oncolytic immunotherapy in humans: experience from circa 500 patients treated with 11 different adenoviruses, with focus on igrelimogene litadenorepvec (TILT-123), a 5/3 chimeric virus coding for TNF and IL2.
Akseli Hemminki (Cancer Gene Therapy Group, University of Helsinki and HUS Comprehensive Cancer Center, Helsinki. TILT Biotherapeutics Oy, Helsinki, Finland)

特別教育講演 (J)

2026 年 7 月 24 日 (金) 9:55 ~ 10:25 第 1 会場

座長：金田 安史 (大阪大学 感染症総合教育研究拠点)

- SEL. 眼再生医療の実用化にむけて
西田 幸二 (大阪大学 大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学 (眼科学) / 大阪大学 ヒューマン・メタバース疾患研究拠点 (WPI-PRIME))

教育講演 1 (J)

2026 年 7 月 23 日 (木) 17:35 ~ 17:50 第 2 会場

座長：山本 武範 (国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部)

EL-1. 遺伝子治療用製品の排出評価について

櫻井 陽 (独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 再生医療製品等審査部)

教育講演 2 (J)

2026 年 7 月 23 日 (木) 17:50 ~ 18:10 第 2 会場

座長：内田 恵理子 (国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部)

EL-2. アデノ随伴ウィルス (AAV) ベクター製品の安全性評価の考え方

井上 貴雄 (国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部)

教育講演 3 (J)

2026 年 7 月 23 日 (木) 18:15 ~ 18:30 第 2 会場

座長：大橋 十也 (東京慈恵会医科大学医学部看護学科健康科学領域)

EL-3. 『研究』と『製造』の境界線：アカデミア発シーズの社会実装を加速させるには

内田 和久 (神戸大学 科学技術イノベーション研究科)

教育講演 4 (J)

2026 年 7 月 24 日 (金) 10:30 ~ 10:55 第 1 会場

座長：小澤 敬也 (自治医科大学名誉教授/同遺伝子治療研究センター)

EL-4. 医薬品の「科学的な評価」を考える

紀平 哲也 (厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課)

教育講演 5 (J)

2026 年 7 月 24 日 (金) 11:00 ~ 11:15 第 1 会場

座長：大津 真 (北里大学 医療衛生学部医療検査学科 血液学研究室)

EL-5. 遺伝子治療実用化コンソーシアムの設立に向けて

小野寺 雅史 (大阪大学大学院工学研究科)

教育講演 6 (J)

2026 年 7 月 25 日 (土) 15:15 ~ 15:35 第 1 会場

座長：谷 憲三朗 (九州大学名誉教授、東京大学医科学研究所)

EL-6. ベクター製造・提供体制の基盤整備と人材育成

岡田 尚巳 (東京大学 医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター)

ASGCT/ESGCT/JSGCT Joint Symposium (E)

2026 年 7 月 23 日 (木) 12:20 ~ 13:50 第 1 会場

座長：中井 浩之 (Dept. of Molecular and Medical Genetics, Oregon Health & Science University)

中村 貴史 (鳥取大学 医学部医学科ゲノム医療学分野)

A. Advancing Homology Directed Repair Genome Editing to the Clinic

Matthew Porteus (Stanford University)

E. ExpEditing AAV gene therapy

Alberto Auricchio (University in Naples "Federico II")

J. 眼疾患に対する遺伝子治療の最近の進展

池田 康博 (宮崎大学 眼科)

タカラバイオ奨励賞講演 (J)

2026 年 7 月 24 日 (金) 13:20 ~ 13:40 第 1 会場

座長：水口 裕之 (大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野)
米満 吉和 (九州大学 大学院薬学研究院 バイオ医薬創成学)
演者：松島 小貴 (東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 遺伝子治療研究部)

日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会共同企画 (J)

遺伝子細胞治療の臨床実装 -現状と課題-

2026 年 7 月 23 日 (木) 13:50 ~ 15:10 第 2 会場

座長：渡邊 淳 (金沢大学附属病院 遺伝診療部・遺伝医療支援センター)
荒川 玲子 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 臨床ゲノム科)

GCHG-1. 遺伝医療における遺伝カウンセリングの位置づけ
渡邊 淳 (金沢大学附属病院 遺伝診療部・遺伝医療支援センター)

GCHG-2. 医療現場における遺伝子細胞治療の実施体制
中國 正祥 (国立成育医療研究センター 遺伝子細胞治療推進センター・臨床研究センター)

GCHG-3. 遺伝性網膜ジストロフィの遺伝子治療
藤波 芳 (東京医療センター・臨床研究センター 視覚研究部・視覚生理学研究室)

GCHG-4. DMD に対する遺伝子治療と遺伝カウンセリングの変遷
竹下 絵里 (国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経小児科)

日本ワクチン学会共同企画 (J)

加速する次世代ワクチン開発の最前線

2026 年 7 月 23 日 (木) 16:10 ~ 17:30 第 2 会場

座長：石井 健 (東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野)
中村 貴史 (鳥取大学 医学部医学科ゲノム医療学分野)

JSVa-1. ワクチン開発研究の新展開：免疫オフターゲット効果の功罪
石井 健 (東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野)

JSVa-2. 効果的な免疫誘導を目指した新規 AAV ベクターワクチンの構築と有効性評価
菅生 健 (東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野)

JSVa-3. ナノミセル-アジュバントを用いた mRNA ワクチンプラットフォーム：高い免疫原性と副反応の低減
位高 啓史 (大阪大学 感染症総合教育研究拠点)

JSVa-4. 新生仔マウスにおける AAV9 ベクター全身投与の安全性評価
植木 紘史 (国立健康危機管理研究機構 国立国際医療研究所・国際ウイルス感染症研究センター／東京大学 医科学研究所・ウイルス感染部門／東京大学 新世代感染症センター)

JSVa-5. HTLV-1 cell-cell 感染防御に有効な中和抗体誘導を目的としたワクチン開発と霊長類モデルでの有効性評価
石井 洋 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 潜在感染研究部)

日本再生医療学会共同企画 (J)

次世代を担う遺伝子改変細胞治療と再生医療：CAR-T から心臓再生まで

2026 年 7 月 24 日 (金) 8:30 ~ 9:50 第 1 会場

座長：岡田 尚巳 (東京大学 医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター)
宮川 繁 (大阪大学 心臓血管外科学)

RM-1. 遺伝子改変 iPS 細胞を基盤とする次世代免疫細胞治療の開発
金子 新 (京都大学 iPS 細胞研究所 臨床応用部門／筑波大学 トランスボーダー医学研究センター がん免疫治療研究分野)

RM-2. 血液内科臨床医から見た遺伝子細胞治療の発展と課題ー CAR-T 細胞療法を中心にー
中村 直和 (京都大学大学院医学研究科 血液内科学講座／東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野)

RM-3. 遺伝子・細胞治療に共通する細胞製品の原料、製造と品質管理ー国産製品を目指してー
長村 登紀子 (東京大学医科学研究所附属病院 セルプロセッシング・輸血部 / 臍帯血・臍帯バンク)

- RM-4. iPS細胞を用いた心臓再生医療の臨床応用
宮川 繁（大阪大学大学院 心臓血管外科）

日本ウイルス学会共同企画（J） ウイルス学が切り拓く遺伝子治療の発展

2026年7月24日（金）9:55～11:15 第2会場

- 座長：小林 剛（大阪大学 微生物病研究所）
櫻井 文教（近畿大学 薬学部）

- JSVi-1. ゼブラフィッシュを用いたヒトノロウイルス人工合成系の確立とその応用
小瀧 将裕（大阪大学微生物病研究所 ウイルス免疫分野）
- JSVi-2. 神経回路解析のための狂犬病ウイルスベクター技術の開発と応用
小坂田 文隆（名古屋大学 大学院創薬科学研究科）
- JSVi-3. ウイルスベクターが切り拓く次世代ワクチン：マラリアをモデルとした遺伝子治療的アプローチ
吉田 栄人（金沢大学 薬学類）
- JSVi-4. レオウイルスのがん細胞特異的な感染を規定する細胞側因子の同定と上皮間葉転換を起こしたがん細胞への高効率な殺細胞効果
櫻井 文教（近畿大学 薬学部／近畿大学 薬学総合研究所／大阪大学 大学院薬学研究科）

日本核酸医薬学会共同企画（J） 核酸医薬を支えるバイオロジーの理解と医薬応用への取り組み

2026年7月25日（土）8:30～9:50 第1会場

- 座長：山田 陽史（協和キリン株式会社 研究本部 東京リサーチパーク）
竹内 理（京都大学 大学院医学研究科）

- NA-1. アンメットメディカルニーズに対応可能な個別化医療の実現をめざした SNPD-siRNA の開発の現状
程 久美子（東京科学大学 核酸・ペプチド創薬治療研究センター／株式会社 ANRis）
- NA-2. mRNA の構造を標的としたアンチセンス核酸医薬による免疫制御
竹内 理（京都大学 大学院医学研究科）
- NA-3. プログラマブル RNA による細胞制御と次世代核酸医薬への展開
齊藤 博英（東京大学、京都大学 定量生命科学研究所、iPS 細胞研究所）
- NA-4. COVID-19mRNA ワクチンの研究開発から得られた mRNA ワクチン技術に関する知見と今後の展望
城内 直（第一三共株式会社 研究開発本部 ディスカバリー第二研究所第四グループ）

日本小児神経学会共同企画（J） 小児神経疾患における遺伝子治療臨床導入の実践と課題

2026年7月25日（土）9:55～11:15 第1会場

- 座長：村松 一洋（自治医科大学 小児科）
水野 朋子（東京科学大学小児科）

- CN-1. デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する遺伝子治療の臨床導入：施設認定と運用体制の構築
本橋 裕子（国立精神・神経医療研究センター 脳神経小児科）
- CN-2. 希少小児神経疾患に対する遺伝子治療：臨床導入と実装戦略
小坂 仁（自治医科大学 小児科学）
- CN-3. ライツボーム病に対する造血幹細胞遺伝子治療の開発と課題
小林 博司（東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 遺伝子治療研究部）
- CN-4. 遺伝子治療開発の国際協力
井上 健（国立精神・神経医療研究センター）

日本ゲノム編集学会共同企画 (J)
基礎生命科学から切り拓く次世代ゲノム編集・遺伝子治療

2026 年 7 月 25 日 (土) 15:40 ~ 17:00 第 1 会場

座長：中神 啓徳 (大阪大学 医学系研究科)
 大森 司 (自治医科大学医学部 生化学講座病態生化学部門)

- GE-1. イントロダクション
大森 司 (自治医科大学医学部 生化学講座病態生化学部門)
- GE-2. 柔軟性、正確性、送達性、編集効率に優れた万能ゲノム編集ツール eSaCas9-NNG の創出
大村 紗登士 (東京大学 理学系研究科生物科学専攻)
- GE-3. CRISPR-Cas3 による次世代ゲノム編集モダリティの確立と臨床応用への展開
吉見 一人 (京都大学 医学研究科/東京大学 医科学研究所)
- GE-4. 造血幹細胞を標的としたゲノム編集による先天性免疫異常症への新たな治療戦略
内山 徹 (国立成育医療研究センター 成育遺伝研究部)
- GE-5. RNA 恒常性制御機構の破綻による疾患発症メカニズム
久場 敬司 (九州大学 医学研究院 薬理学分野)

日本 DDS 学会共同企画 (J)
次世代医療モダリティを実装する DDS 設計戦略

2026 年 7 月 25 日 (土) 15:40 ~ 17:00 第 2 会場

座長：西川 元也 (東京理科大学 薬学部)
 小暮 健太郎 (徳島大学 大学院医歯薬学研究部)

- DDS-1. 微弱電流を用いた高分子医薬の細胞質送達
小暮 健太郎 (徳島大学 大学院医歯薬学研究部)
- DDS-2. 機能性脂質設計を基盤とした高分子送達用脂質ナノ粒子製剤の開発
佐藤 悠介 (北海道大学 大学院薬学研究院)
- DDS-3. 細胞外小胞リプログラミング技術を基盤とする自家移植型リンパ節再生細胞医薬の開発
草森 浩輔 (東京理科大学 薬学部)
- DDS-4. mRNA を基盤とした感染症、がんに対する次世代 mRNA 創薬
内田 智士 (東京科学大学総合研究院 難治疾患研究所/川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター/東京大学 新世代感染症センター)
- DDS-5. 核酸医薬品の構造設計による体内動態および副作用の制御
西川 元也 (東京理科大学 薬学部/東京理科大学 総合研究院)

一般シンポジウム 1 (J)
社会実装を見据えたウイルスベクター製造基盤整備
JSGCT 認定医講習指定セッション

2026 年 7 月 23 日 (木) 17:00 ~ 18:20 第 1 会場

座長：岡崎 利彦 (大阪大学医学部附属病院 未来医療センター)
 内山 進 (大阪大学 工学研究科生物工学専攻)

- S1-1. 遺伝子治療臨床試験の開発にあたり研究者に求められる製品品質とは
小野寺 雅史 (大阪大学大学院工学研究科)
- S1-2. FIH に向けた AAV ベクター CMC 戦略：高品質製造、分析管理、規制対応
内山 進 (大阪大学 工学研究科生物工学専攻)
- S1-3. 動き出すアカデミア製造基盤
岡崎 利彦 (大阪大学医学部附属病院 未来医療センター)
- S1-4. 遺伝子治療用ベクターの商用規模生産に向けた戦略的取り組み：共同製造組織モデル
土井 知宏 (株式会社ユー・メディコ)

- S1-5. 遺伝子治療用ベクターの商用規模生産に向けた戦略的取り組み：共同製造組織モデル
齋藤 俊介（株式会社シンプロジェン）
- S1-6. 遺伝子治療用ベクターの商用規模生産に向けた戦略的取り組み：共同製造組織モデル
飯沼 良介（太陽ファルマテック株式会社 バイオ事業部）

一般シンポジウム 2 (J)

遺伝子細胞治療の新展開

JSGCT 認定医講習指定セッション

2026 年 7 月 23 日（木）12:20 ～ 13:40 第 2 会場

- 座長：保仙 直毅（大阪大学医学系研究科 血液・腫瘍内科）
畠 賢一郎（株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング）
- S2-1. 同種造血幹細胞移植後の急性骨髄性白血病に対する ミスマッチ HLA-DR 分子を標的とした CAR T/CAR NK 細胞
池田 峻弥（大阪大学大学院医学系研究科 生体病態情報科学講座／大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部未来医療センター）
- S2-2. 産業側から見た再生医療・細胞治療開発の現状と課題
畠 賢一郎（株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング）
- S2-3. 膠原病に対する CAR T 細胞療法：臨床エビデンスの進展と今後の展望
中嶋 蘭（京都大学 大学院医学研究科 臨床免疫学）
- S2-4. 細胞系譜安定性を保持する誘導性制御性 T 細胞による免疫寛容誘導
川上 竜司（京都大学 医生物学研究所／大阪大学 免疫学フロンティア研究センター）

一般シンポジウム 3 (J)

再生医療等製品の薬価算定と保険償還

2026 年 7 月 23 日（木）16:10 ～ 17:30 第 3 会場

- 座長：久米 晃啓（株式会社 BREXA Advan）
内田 恵理子（国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部）
- S3-1. 新規モダリティ製品等の保険償還制度の概観
成川 衛（北里大学 大学院薬学研究科）
- S3-2. 開発企業から見た医療技術評価や社会実装の課題と考察
辻村 公平（再生医療イノベーションフォーラム 再生医療等製品委員会 医療経済部会）
- S3-3. 新規モダリティ医療技術の評価
松本 真人（健康保険組合連合会）
- S3-4. 遺伝子治療における安全管理コストの正当な評価：カルタヘナ法対応加算の新設と JSGCT の取り組み
村松 一洋（自治医科大学 小児科／自治医科大学 遺伝子治療研究センター）

一般シンポジウム 4 (E or J)

神経筋疾患

2026 年 7 月 24 日（金）8:30 ～ 9:50 第 2 会場

- 座長：長野 清一（大阪大学 脳神経内科）
村松 慎一（自治医科大学 神経遺伝子治療）
- S4-1. 血液脳関門通過技術を基盤とした脳指向型 AAV カプシドの開発と神経セロイドリポフスチン症への応用
飯塚 俊輔（J C R ファーマ株式会社 研究本部 創薬研究所）
- S4-2. てんかんモデルコモンマウスモセットの作出と遺伝子治療法の開発
松崎 泰教（群馬大学大学院医学系研究科 脳神経再生医学分野／群馬大学 未来先端研究機構 ウイルスベクター開発研究センター）
- S4-3. 孤発性筋萎縮性側索硬化症に対する AAV-ADAR2 ベクター髄腔内投与の効果
森田 光哉（自治医科大学附属病院 リハビリテーションセンター）

- S4-4. Preliminary Clinical Outcomes and Early Safety Profile of Gene Therapy for Advanced Parkinson's Disease: First Three Cases from Thailand
Roongroj Bhidayasiri (Chulalongkorn Center of Excellence for Parkinson's Disease and Related Movement Disorders, Faculty of Medicine, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand)

一般シンポジウム 5 (E or J)

眼科・耳鼻咽喉科

JSGCT 認定医講習指定セッション

2026 年 7 月 24 日 (金) 8:30 ~ 9:50 第 3 会場

座長：池田 康博 (宮崎大学 眼科)
西口 康二 (名古屋大学 眼科)

- S5-1. 遺伝性難聴への AAV 遺伝子治療の開発
神谷 和作 (順天堂大学 医学部)
- S5-2. Preliminary Safety and Efficacy of AK-OTOF Gene Therapy for Otoferlin Gene (OTOF)-mediated Hearing Loss
Lin Brian (Eli Lilly and Company Lilly Regenerative Medicine)
- S5-3. 新生血管型加齢黄斑変性に対して開発中の遺伝子治療 Surabgene lomparvovec の網膜下投与：第 2 相薬力学試験の 1 年結果
大谷 哲也 (アッヴィ合同会社 開発本部)
- S5-4. 網膜色素変性に対する光遺伝学を応用した視覚再生遺伝子治療薬の研究開発
栗原 俊英 (慶應義塾大学医学部 眼科学教室)

一般シンポジウム 6 (J)

希少疾患、内分泌、代謝

JSGCT 認定医講習指定セッション

2026 年 7 月 24 日 (金) 9:55 ~ 11:15 第 3 会場

座長：内山 徹 (国立成育医療研究センター 成育遺伝研究部)
山形 崇倫 (栃木県立リハビリテーションセンター 小児科)

- S6-1. 先天性副腎皮質過形成症に対する AAV を用いた遺伝子治療開発
内木 康博 (国立成育医療研究センター 内分泌代謝科/国立成育医療研究センター研究所 システム病態研究室)
- S6-2. 乳児期発症神経変性症 (CONDCA) マウスモデルに対する低侵襲的遺伝子治療の検討
桑子 賢一郎 (島根大学 医学部 神経・筋肉生理学)
- S6-3. 希少疾患に対する個別化核酸医薬創薬の取り組み
桑原 宏哉 (東京科学大学 核酸・ペプチド創薬治療研究センター (TIDE) / 東京科学大学 脳神経病態学分野 (脳神経内科))
- S6-4. 希少疾患に対する AAV 遺伝子治療開発の取り組み
浅井 克仁 (株式会社 ONODERA GT Pharma)

一般シンポジウム 7 (J)

ベクター開発

2026 年 7 月 25 日 (土) 8:30 ~ 9:50 第 2 会場

座長：水上 浩明 (自治医科大学 分子病態治療研究センター 遺伝子治療研究部)
青木 一教 (国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門)

- S7-1. がん治療のための次世代ワクシニアウイルスベクター
中武 大夢 (鳥取大学医学部 ゲノム医学学分野)
- S7-2. AAV ベクター産生システムの改良と分子特異的ベクター基盤の創生
大庭 賢二 (自治医科大学 分子病態治療研究センター 遺伝子治療研究部/自治医科大学 遺伝子治療研究センター)
- S7-3. 改良型アデノウイルスベクターの開発と糖尿病に対する遺伝子治療への応用
清水 かほり (大阪大学大学院 薬学研究科)
- S7-4. ステルス型 RNA ベクターの開発と応用
中西 真人 (ときわバイオ株式会社)

一般シンポジウム 8 (J)
腫瘍溶解性ウイルス (がんウイルス療法)
JSGCT 認定医講習指定セッション

2026 年 7 月 25 日 (土) 9:55 ~ 11:15 第 2 会場

座長：藤原 俊義 (岡山大学 消化器外科学)
 福原 浩 (杏林大学 泌尿器科)

- S8-1. IL-12 発現型がん治療用ウイルスを用いた悪性黒色腫に対するウイルス療法の臨床開発
 奥山 隆平 (信州大学 医学部 皮膚科)
- S8-2. サバイビン反応性 m-CRA の基礎・非臨床・臨床開発
 小戩 健一郎 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 遺伝子治療・再生医学分野／鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 附属 南九州先端医療開発センター／鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 革新的治療開発研究センター／鹿児島大学病院 探索的医療開発センター／サーブ・バイオフィーマ株式会社／内閣府 健康・医療戦略推進専門調査会／鹿児島大学医学部保健学科 臨床理学療法学／鹿児島大学病院 臨床研究管理センター)
- S8-3. 腫瘍溶解アデノウイルスによるアンメット・メディカルニーズへの挑戦：食道癌への経内視鏡的腫瘍内投与
 吹野 晃一 (オンコリスバイオフィーマ株式会社 メディカルサイエンス部)
- S8-4. p53 搭載腫瘍溶解性アデノウイルス製剤 OBP-702 の膵臓癌に対する臨床開発
 黒田 新士 (岡山大学 消化器外科)

一般シンポジウム 9 (J)
若手研究者セッション
JSGCT 認定医講習指定セッション

2026 年 7 月 25 日 (土) 15:40 ~ 17:00 第 3 会場

座長：清水 かほり (大阪大学 大学院薬学研究科)
 今野 歩 (群馬大学大学院 医学系研究科 脳神経再生医学分野 医学系研究科 脳神経再生医学分野)

- S9-1. GABA 作動性ニューロン選択的 AAV ベクターの開発と遺伝子治療への応用
 深井 悠貴 (群馬大学未来先端研究機構 ウイルスベクター開発研究センター／群馬大学大学院医学系研究科 脳神経再生医学分野)
- S9-2. 複数 AAV 血清型に対応した抗 AAV 中和抗体測定法および抗 AAV 中和抗体価が遺伝子発現に及ぼす影響の検討
 綿野 亮太 (自治医科大学 分子病態治療研究センター 遺伝子治療研究部)
- S9-3. ヒト 5 型アデノウイルスベクターワクチンの細胞内取り込み経路がワクチン効果に及ぼす影響
 大西 里佳 (大阪大学大学院 薬学研究科)
- S9-4. CAR-T 細胞製造の簡略化に向けた取り組みと最近の技術トレンド
 天石 泰典 (タカラバイオ株式会社 CDM センター第 3 部)
- S9-5. がん治療用コクサッキーウイルス製剤の開発
 宮本 将平 (東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 悪性腫瘍治療研究部)

プレナリーセッション (E or J)

2026 年 7 月 23 日 (木) 9:45 ~ 10:33 第 1 会場

座長：中神 啓徳 (大阪大学 医学系研究科)
 鐘ヶ江 裕美 (アンジェス株式会社)

- PS1. TRIDENT: A Single Adenoviral Platform for In Situ CRISPR-Mediated CAR-T Cell Engineering and Systemic Anti-Tumor Immunity
 Masataka Suzuki (Baylor college of medicine Center for Cell and Gene Therapy)
- PS2. 肝臓ゲノム編集治療のための超小型 CRISPR-Cas12j のエンジニアリング
 豊島 由佳 (京都府立医科大学 循環器内科)
- PS3. Combination therapy for MPS-IVA by using Hematopoietic Stem Cell Therapy followed by AAV-9 gene therapy
 Shunji Tomatsu (Nemours Children's Health)
- PS4. 網膜色素変性に対する塩基挿入変異のリバージョンゲノム編集遺伝子治療
 藤田 幸輔 (名古屋大学大学院医学系研究科 眼科学)

一般演題（口演）

Oral Session 1 (E or J)

Cancer 1

2026 年 7 月 23 日（木）12:20 ～ 13:05 第 3 会場

座長：田澤 大（岡山大学医歯薬学総合研究科 消化器外科学）

- O1-1. 腫瘍溶解性麻疹ウイルス療法の第 1 相臨床試験
甲斐 知恵子（帝京大学 先端総合研究機構／東京大学 生産技術研究所）
- O1-2. 感染性を増強したプロモーター制御腫瘍溶解性アデノウィルスの膵癌への超音波内視鏡下腫瘍内投与 — 前臨床～第 I 相試験
山本 正人（ミネソタ大学 外科／ミネソタ大学 内科（消化器内科））
- O1-3. Bench-to-Bedside: First-in-Human Combination of Local Armed Oncolytic Adenovirus and Systemic CAR-T Therapy Drives T Cell Proliferation in Advanced Solid Tumors
Masataka Suzuki（Baylor college of medicine Center for Cell and Gene Therapy）
- O1-4. 再発膠芽腫を対象とした TUG 1 を標的とした核酸治療薬の第 I 相試験（医師主導治験）
齋藤 竜太（名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科）
- O1-5. 再発膠芽腫に対する Ad-SGE-REIC-NS を用いた「Longitudinal Immunotherapy」の概念
大谷 理浩（岡山大学大学院 脳神経外科）

Oral Session 2 (J)

Cancer 2

2026 年 7 月 23 日（木）13:10 ～ 14:04 第 3 会場

座長：戸田 正博（慶應義塾大学医学部脳神経外科）

- O2-1. p53 発現腫瘍溶解アデノウィルス搭載間葉系幹細胞による腹膜播種の代謝微小環境制御と新規治療戦略
金谷 信彦（岡山大学 消化器外科）
- O2-2. p53 搭載腫瘍溶解ウイルスによる GAD1/GABA 経路抑制を介した免疫療法感受性の増強
松本 真琴（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学）
- O2-3. p53 武装化腫瘍融解ウイルス導入樹状細胞は大腸癌に対する腫瘍融解ウイルス療法の抗腫瘍免疫を増強する
成田 周平（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学）
- O2-4. GBM 幹細胞の神経分化と未分化細胞除去による脳腫瘍担癌マウスの脳機能維持
近藤 亨（北海道大学 遺伝子病制御研究所 幹細胞生物学分野）
- O2-5. 膠芽腫に対する免疫細胞療法の治療開発の試み
木嶋 教行（大阪大学大学院医学系研究科 脳神経外科）
- O2-6. 悪性脳腫瘍に対する SHED を用いた遺伝子細胞治療
黒住 和彦（浜松医科大学 脳神経外科）

Oral Session 3 (J)

Neurologic, ophthalmic, and musculo-skeletal diseases

2026 年 7 月 23 日（木）14:10 ～ 15:04 第 3 会場

座長：平井 宏和（群馬大学 脳神経再生医学分野、ウイルスベクター開発研究センター）

- O3-1. 先天性 GPI 欠損症に対するアデノ随伴ウイルス（AAV）を用いた遺伝子治療の最適化
梅下 沙織（大阪大学微生物病研究所 糖鎖免疫学グループ）
- O3-2. AAV-PHP.eB-Syn1-RPL26 を用いた野生型 TDP-43 過剰発現 ALS モデルマウスの治療研究
佐賀 亮子（大阪大学 連合小児発達学研究所、神経発達・変性疾患共同研究講座）
- O3-3. Rpgrip1 tvrm111 マウスにおける網膜構造および機能の経時的変化
五十嵐 勉（日本医科大学千葉北総病院 眼科／日本医科大学 生化学・分子生物学）

- O3-4. 二重作用型 AAV 遺伝子治療による、汎用性の高い網膜変性進行抑制方法
笹井 紀明（奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス領域）
- O3-5. デランジストロゲン モキセバルボク投与の安全性と実施体制：当院での 2 例の経験
堀部 拓哉（大阪母子医療センター 脳神経内科）
- O3-6. パーキンソン病に対する AAV/TH/GCH/AADC 遺伝子治療の第 I/II 相臨床試験
村松 慎一（自治医科大学 神経遺伝子治療）

Oral Session 4 (E or J)

Gene editing and mRNA

2026 年 7 月 23 日（木）17:35 ～ 18:29 第 3 会場

座長：真下 知士（東京大学医科学研究所 先進動物ゲノム研究分野）

- O4-1. ゲノム編集を用いた遺伝子発現サイレンシングによる DRPLA の治療法開発
加藤 泰介（新潟大学脳研究所 分子神経疾患資源解析学分野）
- O4-2. ゲノム編集製品によるオフターゲット変異部位の正確な Cell-free 解析手法の開発
山下 拓真（国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部）
- O4-3. Synergistic phenotypic rescue of MPS IVA fibroblasts via co-culture with IDLV-CRISPR/Cas9 engineered combination of HSCs and MSCs
Shunji Tomatsu（Nemours Children's Health）
- O4-4. タイプ I-D CRISPR-Cas (TiD-X) を基盤にした希少疾患に対する遺伝子治療モデルの開発
和田 直樹（徳島大学 大学院社会産業理工学研究部）
- O4-5. 塩基最適化自己複製型 RNA による効率的な心筋発現と心筋梗塞後の機能回復の向上
伴田 一真（大阪大学 心臓血管外科）
- O4-6. 多因子 mRNA 治療による心筋梗塞後リモデリング制御と心機能改善
伴田 一真（大阪大学 心臓血管外科）

Oral Session 5 (J)

Regulatory science, tissue engineering, and vaccines

2026 年 7 月 25 日（土）8:30 ～ 9:24 第 3 会場

座長：玉井 克人（大阪大学大学院 医学系研究科）

- O5-1. アデノ随伴ウイルスベクター製品の安全性評価の考え方
山本 武範（国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部）
- O5-2. 再生医療等安全性確保法改正後の遺伝子治療審査に対応した委員会体制の構築と初期運用
片野 尚子（東京科学大学 再生医療研究センター）
- O5-3. エンテロウイルス D68 に対するウイルス様粒子発現型 mRNA ワクチンの開発と製剤的改良
國島 勇太（大阪大学 微生物病研究所 ワクチン創成グループ／一般財団法人阪大微生物病研究会）
- O5-4. mRNA 医薬を用いた組織再生：膝半月板損傷治療へのアプローチ
位高 啓史（大阪大学 感染症総合教育研究拠点／東京科学大学 核酸・ペプチド創薬治療研究センター）
- O5-5. パイロドライブジェットインジェクターを用いたインフルエンザワクチンの抗体価比較研究
中神 啓徳（大阪大学 医学系研究科）
- O5-6. 「今を動かし」「未来を担う」人材の育成を見据えたサステナブルな高度技能人材育成
田所 美香（大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部）

Oral Session 6 (E or J)

Preclinical studies 1

2026 年 7 月 25 日 (土) 9:30 ~ 10:24 第 3 会場

座長：後藤 章暢 (神戸国際医療交流財団)

- O6-1. 次世代型ヒト iPS 細胞由来ネフロン前駆細胞を用いた AKI 及び CKD に対する新規細胞療法の開発
荒岡 利和 (京都大学 iPS 細胞研究所 増殖分化機構研究部門)
- O6-2. 負電荷脂質を活用した副反応低減型 mRNA ワクチンの開発
唐木 達哉 (大阪大学微生物病研究所 ワクチン創成グループ/一般財団法人阪大微生物病研究会)
- O6-3. Targeted KEAP1 Disruption Enhances Antioxidant Defense And Mesenchymal Stromal Cell Therapy For Chronic Limb-threatening Ischemia
Jae young Lee (Sungkyunkwan University Samsung Advanced Institute of Health Science and Technology / Samsung Medical Center Cell and Gene Therapy Institute (CGTI), Research Institute for Future Medicine)
- O6-4. オフターゲット切断を生じない Cas9 nickase による安全なノックイン治療プラットフォームの開発：フェニルケトン尿症モデルマウスの治癒
中西 友子 (順天堂大学 疾患モデル研究センター)
- O6-5. 筋特異的 AAV ベクターによる IL-10 発現が Duchenne 型筋ジストロフィーの炎症制御と機能改善にもたらす効果
笠原 優子 (東京大学 医科学研究所 分子遺伝医学分野)
- O6-6. Oral Immune Tolerance Induction Enables Sequential AAV9/AAV8 Gene Therapy for Mucopolysaccharidosis IVA
Shunji Tomatsu (Nemours Children's Health Biomedical and Orthopedics)

Oral Session 7 (J)

Vector development and gene transfer technologies 3

2026 年 7 月 25 日 (土) 10:30 ~ 11:15 第 3 会場

座長：嶋田 洋太 (東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 遺伝子治療研究部)

- O7-1. AAV full capsid 精製を可能にする新規アフィニティーカラム開発
大倉 裕道 (株式会社ダイセル LS インキュベーション室)
- O7-2. AAV 生産時の清澄化工程における陰イオン交換能を有するデプスフィルターの適用性評価
丹羽 智紀 (アステラス製薬株式会社 Cell & Gene Therapy Research, Gene Therapy Technical Development, Process Science)
- O7-3. rAAV 生産性の最大化のためのプロセス開発とデザインスペースの決定
富岡 優介 (メルク株式会社 プロセスソリューションズ事業本部)
- O7-4. 上清中 AAV ベクター回収効率の向上を目的とした生産細胞株の開発
恒川 雄二 (東京大学 医科学研究所 分子遺伝医学分野)
- O7-5. RepCap プラスミド改変による AAV ベクター生産性向上
松井 真 (アステラス製薬株式会社 Cell & Gene Therapy Research, Gene Therapy Technical Development, Process Science)

Oral Session 8 (E or J)

Basic science and technologies 2

2026 年 7 月 25 日 (土) 10:30 ~ 11:15 第 4 会場

座長：住本 秀敏 (滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座)

- O8-1. Tyrosine Kinase Inhibitors Boosts $\gamma\delta$ 2 T Cell Expansion and Memory Phenotypes with Enhanced Antitumor Immunity
Chiumg-Hui Liu (National Chung Hsing University College of Medicine, Doctoral Program in Tissue Engineering and Regenerative Medicine)

- O8-2. 腫瘍溶解性レオウイルスが肝薬物代謝能および併用薬の体内動態に及ぼす影響の解析
川瀬 篤史 (近畿大学 薬学部 医療薬学科 薬物動態学研究室)
- O8-3. Smad2/3 の翻訳抑制を介した Reovirus の脱肝線維化効果の誘導
櫻井 文教 (近畿大学 薬学部/近畿大学 薬学総合研究所/大阪大学 大学院薬学研究科)
- O8-4. Transplant patient derived explanted livers as an excellent source for engineering disease-specific 3D microenvironment for liver organoid technology and personalized disease modeling
Tanveer Ahamd Mir (King Faisal Specialist Hospital and Research Centre, Riyadh, KSA Transplant Research and Innovation Department / College of Science, Alfaisal University, Riyadh KSA Department of Anatomy and Biochemistry)
- O8-5. 短期培養 CAR-T 細胞と SRG システムの併用による新規 CAR-T 療法の有効性検証
内堀 亮介 (自治医科大学 遺伝子治療研究センター)

Oral Session 9 (E or J)

Preclinical studies 2

2026 年 7 月 25 日 (土) 14:25 ~ 15:28 第 2 会場

座長: 三宅 紀子 (日本医科大学 生化学・分子物理学 (分子遺伝学))

- O9-1. AAV5 を用いた血友病 A 遺伝子治療における患者適格性の最適化: 中和抗体価で検証された高精度 ELISA スクリーニング
大森 司 (自治医科大学医学部 生化学講座病態生化学部門/自治医科大学 遺伝子治療研究センター/自治医科大学 分子病態治療研究センター遺伝子治療研究部)
- O9-2. 血友病 A の次世代遺伝子治療に向けた高機能第 VIII 因子バリエーションの開発
柏倉 裕志 (自治医科大学 医学部 生化学講座/自治医科大学 遺伝子治療研究センター)
- O9-3. 改変型 HEXB 搭載 AAV ベクターによる GM2 ガングリオシドーシスに対する遺伝子治療の開発
北風 圭介 (川崎医科大学 薬理学)
- O9-4. CereAAV 変異体によるニーマンピック病 C1 型マウスの遺伝子治療
安田 徹 (国立成育医療研究センター 成育遺伝研究部)
- O9-5. Niemann-Pick disease type C 遺伝子治療マウスにおけるバイオマーカーの検討
渡邊 知佳 (自治医科大学 小児科)
- O9-6. A tumor-agnostic RNA interference therapy targeting the regulatory hubs of oncogenic pathways inhibits cancer aggressiveness and exhibits developable anti-tumor efficacy
Kelvin Tsai (Taipei Medical University Laboratory of Advanced Molecular Therapeutics, Graduate Institute of Medical Sciences, College of Medicine)
- O9-7. Impact of Species-Specific Fc Interactions on HSV1-Based Oncolytic Therapy in Glioblastoma
Emerenziana Runco (Harvey Cushing Neuro-oncology Laboratories, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School Boston, Department of Neurosurgery / School of Medicine, Trinity College Dublin Department of Physiology,)

Oral Session 10 (E or J)

Vector development and gene transfer technologies 4

2026 年 7 月 25 日 (土) 14:25 ~ 15:28 第 3 会場

座長: 華山 力成 (金沢大学 医学系 免疫学 WPI ナノ生命科学研究所)

- O10-1. 非モデル生物の神経活動解析を可能にする AAV カプシドの開発
小野 宏晃 (オックスフォード大学 生理・解剖・遺伝学科/筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構)
- O10-2. Functionally Informed Screening of Gene Therapy Capsid Transduction Efficiency Using Human 3D Engineered Muscle Tissues
Wonil Lee (Curi Bio, Inc.)
- O10-3. エンハンサー標的ゲノム編集 AAV による Plp1 遺伝子発現抑制: Pelizaeus-Merzbacher 病への治療的アプローチ
李 コウ (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 病態生化学研究部)

- O10-4. 組換えアデノ随伴ウイルスの VP 不均一性と VP1 N 末端のゲノム放出への影響
山口 祐希 (大阪大学 大学院工学研究科)
- O10-5. AAV2 変異体における筋指向性およびそのメカニズムの解析
田中 佳典 (タカラバイオ株式会社 製品開発センター第2部)
- O10-6. Engineering a Synthetic Cross-Species Divergent AAV Clade with Resistance to Neutralizing Antibodies and Remarkably Enhanced Potency in Transducing Target Cells
Anusha Sairavi (OREGON HEALTH AND SCIENCE UNIVERSITY MOLECULAR AND MEDICAL GENETICS)
- O10-7. 新規 AAV 投与溶媒の開発: マウス網膜における遺伝子導入効率の最適化と治療効果の検証
山田 和久 (名古屋大学医学部附属病院 眼科)

Oral Session 11 (E or J)

Vector development and gene transfer technologies 5

2026 年 7 月 25 日 (土) 14:25 ~ 15:10 第 4 会場

座長: 中島 大 (Brigham and Women's Hospital Department of Neurosurgery)

- O11-1. 無毒化ヘルペスウイルスベクターの生体内での機能性と安全性における UL41 遺伝子欠失の影響
宮川 世志幸 (日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学))
- O11-2. ヒトノロウイルス構造タンパク質発現ロタウイルスへの遺伝子改変による免疫誘導能の評価
川岸 崇裕 (大阪大学微生物病研究所 ウイルス免疫分野)
- O11-3. In Silico and In Vitro Analysis of Signal Peptides to Enhance Recombinant BMP-2 Protein Secretion in Mammalian Cells
Nuzli Fahdia Mazfufah (Universitas Indonesia Stem Cells and Tissue Engineering, IMERI, Faculty of Medicine)
- O11-4. 細胞融合作用と免疫賦活化サイトカインの搭載は臨床的に意義のある膵臓癌モデル治療時の腫瘍溶解性ワクシニアウイルスの抗腫瘍免疫作用を劇的に改善する
中武 大夢 (鳥取大学医学部 ゲノム医療学分野)
- O11-5. アカデミア CPC における ex vivo 遺伝子治療の実用化に向けたレンチウイルスベクターの製造工程開発
岡藤 咲月 (大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部)

Oral Session 12 (E or J)

Cancer 4

2026 年 7 月 25 日 (土) 15:15 ~ 16:18 第 4 会場

座長: 白川 利朗 (神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科先端医療学分野)

- O12-1. 腫瘍溶解性麻疹ウイルス療法に伴う免疫誘導の治療効果への影響
藤幸 知子 (帝京大学 先端総合研究機構/東京大学 生産技術研究所)
- O12-2. 間葉系幹細胞を利用した増殖型レトロウイルスベクターの輸送戦略と腹膜播種治療への応用可能性
福田 (園田) 絵観子 (兵庫医科大学 先端医学研究所 分子遺伝治療学部門)
- O12-3. 腫瘍溶解性ワクシニアウイルス FUVAC121 の膀胱内単回投与による遠隔転移抑制効果と長期生存の検証
黒崎 創 (鳥取大学医学部 ゲノム医療学分野)
- O12-4. 細胞融合型腫瘍溶解性ワクシニアウイルスへの免疫賦活化遺伝子 IL-15 導入による抗腫瘍免疫応答の強化
板谷 華 (鳥取大学医学部 ゲノム医療学分野)
- O12-5. 解糖系膵臓癌細胞は腫瘍融解アデノウイルスに高感受性を示す重要な治療ターゲットである
田澤 大 (岡山大学医歯薬学総合研究科 消化器外科学/岡山大学病院 新医療研究開発センター)
- O12-6. 原発性および転移性がんを強力に治療する合理的な 3 種併用の免疫遺伝子搭載型・腫瘍溶解性アデノウイルス療法
西川路 侑耶 (鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 遺伝子治療・再生医学)
- O12-7. Development of the CD133-targeted oncolytic adenovirus for metastatic colorectal cancer
Mizuho Sato-Dahlman (University of Minnesota Department of Surgery)

Oral Session 13 (E or J)

Preclinical studies 3

2026 年 7 月 25 日 (土) 16:20 ~ 16:56 第 4 会場

座長：喜納（早下）裕美（東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野）

- O13-1. 実質細胞を主軸とした臓器創生—大都市創生との類似点からの考察
大橋 一夫（大阪大学 薬学研究科／あびこ内科外科大橋クリニック）
- O13-2. 高活性 NK 様細胞 (GAIA-102) に特有の分化分岐を規定する転写制御機構の解明
鄭 思拓（九州大学薬学院 革新的バイオ医薬創成学）
- O13-3. 歯周組織への遺伝子導入による歯槽骨の再生と長期的変化
山本 まりこ（関西女子短期大学 保健科）
- O13-4. 腫瘍溶解アデノウイルス療法による腫瘍由来細胞外小胞中 MFGE8 低下が導くマクロファージ制御を介した大腸癌肝転移の抑制
皆木 仁志（岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学）

学生セッション 1 (E or J)

Preclinical and clinical studies

2026 年 7 月 24 日 (金) 8:30 ~ 9:24 第 4 会場

座長：石井 亜紀子（いわき病院）

曾田 泰（東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野）

- SO1-1. 腫瘍組織を素材とした抗原内包 DNA ハイドロゲルの作製と機能評価
Subinuer Abuduaini（東京理科大学 薬学研究科）
- SO1-2. 遺伝子治療後の脊髄性筋萎縮症患児におけるアデノ随伴ウイルス抗体の血清型間での交差反応性に関する知見
矢吹 真菜（東京科学大学 医歯学総合研究科医歯学専攻／国立成育医療研究センター 成育遺伝研究部）
- SO1-3. 新生児期 CNS 標的遺伝子導入による重症 SSADH 欠損症モデルマウスの治療効果
甲州 希理（自治医科大学 小児科）
- SO1-4. リンパ節を移植部位とする間葉系間質細胞シートの長期生存と糖尿病治療への応用
高橋 咲妃（東京理科大学 薬学部）
- SO1-5. 細胞外小胞を用いたシュワン細胞様細胞のリプログラミングと末梢神経損傷治療
湊 純太（東京理科大学 薬学部）
- SO1-6. 細胞外小胞によるリンパ管内皮細胞誘導を基盤としたリンパ管網内蔵組織の構築とリンパ節再生
尾花 柊（東京理科大学 薬学部）

学生セッション 2 (E or J)

Vector development and gene transfer technologies 1

2026 年 7 月 24 日 (金) 9:30 ~ 10:24 第 4 会場

座長：笠原 優子（東京大学 医科学研究所 分子遺伝医学分野）

内堀 亮介（自治医科大学 遺伝子治療研究センター）

- SO2-1. ロタウイルスゲノム内における外来遺伝子挿入部位の探索によるワクチンベクターの改良
松村 香名子（大阪大学 微生物病研究所 ウイルス免疫分野）
- SO2-2. 安全で有効なワクチン製剤を目指した mRNA 搭載脂質ナノ粒子の最適化
八鍬 まい（北海道大学 大学院薬学研究院）
- SO2-3. 肝臓外組織における遺伝子治療実現に向けた脂質ナノ粒子の開発
花沢 瞬（北海道大学 大学院薬学研究院）
- SO2-4. ペプチドタグ提示型 LNP と二重特異性抗体 Addbody を用いた受容体指向性 LNP デリバリーシステムの開発
中山 和奏（大阪大学 蛋白質研究所）
- SO2-5. LMNA 変異拡張型心筋症に対する AAV9 を用いた遺伝子治療の有効性評価
三井 虹輝（自治医科大学 医学部 生化学講座 機能生化学部門）

SO2-6. イオントフォoresisによる機能性生体高分子の肝組織細胞質への送達
井上 慎也（徳島大学 大学院薬学研究科）

学生セッション 3 (E or J)

Basic science and technologies 1

2026 年 7 月 24 日（金）10:30 ～ 11:15 第 4 会場

座長：恒川 雄二（東京大学 医科学研究所 分子遺伝医学分野）
岡本 幸子（タカラバイオ株式会社）

SO3-1. 最適化 Cas9-gRNA による網膜色素変性症治療
池田 敏英（京都府立医科大学 眼科）

SO3-2. CRISPR/CasRx 発現アデノウイルスベクターによる顕著なコラテラル活性を伴わない遺伝子ノックダウン
小阪田 悠生（大阪大学 薬学研究科）

SO3-3. ヒト 4 倍体 iPS 細胞からの成熟肝細胞分化誘導
篠崎 佳代子（東京都医学総合研究所 再生医療プロジェクト／東京科学大大学院 医歯学総合研究科）

SO3-4. 高活性ヒト NK 様細胞（GAIA-102）の凍結融解後に残存する代謝異常と 3D 抗腫瘍機能障害
石本 健太（九州大学大学院薬学研究院 革新的バイオ医薬創成学講座）

SO3-5. ピーナッツアレルギー発症予防を目的としたピーナッツ由来ナノ粒子／アジュバント搭載 DNA ハイドロゲルの開発
木下 拓己（東京理科大学 薬学部）

学生セッション 4 (E or J)

Cancer 3

2026 年 7 月 25 日（土）8:30 ～ 9:24 第 4 会場

座長：松島 小貴（東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 遺伝子治療研究部）
瀬原 吉英（自治医科大学 分子病態治療研究センター遺伝子治療研究部）

SO4-1. 改良型ヒト 35 型腫瘍溶解性アデノウイルスの開発とヒトがん細胞における機能評価
林 美佑（大阪大学 大学院薬学研究科）

SO4-2. 腫瘍溶解性ヒト 35 型アデノウイルスによる STING シグナル依存的な抗腫瘍免疫活性化メカニズムの解明
仲谷 隼（大阪大学 大学院薬学研究科）

SO4-3. 腫瘍溶解性ウイルス感染 MSC は炎症性サイトカインを介して抗腫瘍免疫を再活性化する
Sibal Patricia Angela Alvero（名古屋大学 大学院医学系研究科 癌免疫治療研究室／名古屋大学 大学院医学系研究科 脳神経外科）

SO4-4. 細胞融合型 IL-12/CCL21 発現腫瘍溶解性ワクシニアウイルスの両側皮下及び同所肝細胞がんモデルマウスにおける治療効果の検証
中川 萌（鳥取大学 ゲノム医療学分野）

SO4-5. 間葉系幹細胞をキャリアとした増殖型レトロウイルスベクター送達法と骨肉腫肺転移治療への応用
篠田 修吾（兵庫医科大学 先端医学研究所 分子遺伝治療学部門／関西学院大学 理工学研究科 生物科学専攻）

SO4-6. レオウイルスによる免疫細胞の腫瘍内浸潤促進メカニズムに関する検討
前田 湧斗（近畿大学 大学院薬学研究科）

学生セッション 5 (E or J)

Vector development and gene transfer technologies 2

2026 年 7 月 25 日（土）9:30 ～ 10:24 第 4 会場

座長：諸富 洋介（九州大学 薬学研究院）
佐藤 - ダールマン みずほ（Department of Surgery, University of Minnesota）

SO5-1. CD44ECD-synNotch-HIF-3 α 4 合成受容体遺伝子を搭載する制限増殖型アデノウイルスベクター（CRAd-synNotch）の前立腺癌マウスモデルにおける抗腫瘍効果の検討
森川 夕桐子（神戸大学 科学技術イノベーション研究科 先端医療・製薬学分野）

- SO5-2. 融合型腫瘍溶解性ワクシニアウイルスが、局所的 IL-15 トランスプレゼンテーションを介して腫瘍微小環境を再構築する
Aboalela Mona Alhussein (名古屋大学大学院医学系研究科 癌免疫治療研究室／ザガジグ大学 (エジプト) 医学部 医学微生物学免疫学教室)
- SO5-3. ヒト血液脳関門モデルによる新規脳疾患治療用 AAV ベクター /CereAAV.YN の性能評価
磯貝 隆斗 (東京薬科大学 薬学部)
- SO5-4. 中脳ドパミン神経選択的なエンハンサーを用いた AAV ベクターの構築と遺伝子発現の最適化に向けた評価
児嶋 励央 (大阪大学 大学院薬学研究科／東京科学大学 総合研究院 難治疾患研究所)
- SO5-5. YY1 配列導入による AAV ベクター産生量向上の試み
大房 悠里 (自治医科大学 分子病態治療研究センター 遺伝子治療研究部)
- SO5-6. Simian Ad25 ベクターは中和抗体を回避し鼻腔内投与で強い免疫応答を誘導する
奥村 風香 (大阪大学 薬学研究科)

Poster Session 1 (E or J)

2026 年 7 月 24 日 (金) 14:05 ~ 14:55 展示会場

- P1-1. ドラッグ・リポジショニングに基づく遺伝子操作技術の開発
小田部 亮広 (地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 光スイッチ医療実証グループ/東京大学大学院総合文化研究科)
- P1-2. リボスイッチによる外来遺伝子発現制御の in vitro / in vivo 評価
横林 洋平 (沖縄科学技術大学院大学 核酸化学・工学ユニット)
- P1-3. Preparation of control materials for thalassemia mutation analysis by genome editing in human embryonic kidney 293T cells
Tiwaporn Nualkaew (School of Allied Health Sciences, Walailak University Medical Technology / Walailak University, Thailand Hematology and Transfusion Science Research Center)
- P1-4. VLP-Delivered CRISPR/Cas9 Modulates NK-92 Cell Responses: A Multi-Omic Study on KLRK1 Knockout for Kidney Disease Therapy
Cheng-Ying Chu (Taipei Medical University CRISPR Gene Targeting Core)
- P1-5. LbCas12a の細胞質局在依存的分解を利用した安全性の高いゲノム編集ツールの開発
小阪田 悠生 (大阪大学 薬学研究科)
- P1-6. 神経由来エクソソームを用いた HIV 関連神経認知障害バイオマーカーの探索
後原 綾子 (東京大学医科学研究所 分子遺伝医学分野/東京大学医科学研究所 感染症分野)
- P1-7. 複数の CAR 遺伝子導入細胞製品に対応したモジュール連結型の自動化細胞処理、製剤化・充填システム
人見 淳一 (ライフテクノロジーズジャパン株式会社 バイオサイエンス事業部)
- P1-8. Demonstrating End-to-End Automation of CAR-T Manufacturing and Release using Patient Material
Isabel Tian (Cellares Scientific Affairs)
- P1-9. End-to-end automated generation of CD19 CAR-T cells from whole blood
Isabel Tian (Cellares)
- P1-10. レンチウィルスベクターによる ex vivo ゲノム編集したヒト皮膚由来間葉系間質細胞 (MSC) の臨床応用に向けた大量培養
阪上 守人 (大阪大学 未来医療センター)
- P1-11. 全血から T 細胞を高い純度で分離する Gibco™ CTS™ Detachable Dynabeads™ CD4 および CD8 の評価
千葉 明子 (ライフテクノロジーズジャパン株式会社 バイオサイエンス事業部)
- P1-12. プラスミド取り込みを指標とした HEK293 クローンの樹立
内田 裕貴 (富士フイルム株式会社 バイオサイエンス&エンジニアリング研究所)
- P1-13. フローサイトメーターを用いた IFN- γ 依存的 PD-L1 発現誘導の定量評価
森藤 将之 (株式会社東レリサーチセンター バイオ分析統合研究部)
- P1-14. 5-Year Experience of Autologous PBSC Processing in a Korean Tertiary Medical Center
Soo-Kyung Kim (Ewha Womans University College of Medicine Department of Laboratory Medicine)
- P1-15. HAT 細胞における rAAV 高生産性トランスフェクション試薬選別手法の開発
増見 恭子 (神戸大学 科学技術イノベーション研究科)
- P1-16. レオウイルスによる内皮間葉転換の抑制
櫻井 文教 (近畿大学 薬学部/近畿大学 薬学総合研究所/大阪大学 大学院薬学研究科)
- P1-17. Notch ligand を用いた養子免疫療法用免疫細胞のブースターサプリメントの開発
山崎 奈穂 (富士フイルム株式会社 バイオサイエンス&エンジニアリング研究所)
- P1-18. RNA 制御因子 CNOT4 の E3 ユビキチンリガーゼ活性による炎症応答制御機構の解析
大後 徳彦 (九州大学 大学院医学研究院薬理学分野/九州大学 大学院医学研究院呼吸器内科学分野)

- P1-19. 新規カプシド改変型 CereAAV の精製工程の開発
中山 洋平 (タカラバイオ株式会社 CDM センター第 5 部)
- P1-20. 遺伝子治療用製品の安全性向上に向けた AAV カプシド表面糖鎖の解析と高純度精製・製造技術の開発
和田 美加子 (東京大学 医科学研究所)
- P1-21. 簡便かつ低コストな AAV ベクター精製法の開発とその有用性評価
喜納 裕美 (東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野)
- P1-22. 新規 AAV アフィニティーカラムで Full capsid を単離するための最適条件検討
岩下 由紀 (株式会社ダイセル LS インキュベーション室)
- P1-23. 脳血管障害治療に向けた血管平滑筋指向性アデノ随伴ウイルスベクター開発
瀬原 吉英 (自治医科大学 分子病態治療研究センター遺伝子治療研究部)
- P1-24. Enhanced blood-brain barrier crossing and hepatic detargeting of AAV by displaying anti-TFRC VHH through a versatile separated VP expression platform
Xiaolong Cai (AAVAB Laboratory, GeneMedi Biological Technology Co., LTD., Shanghai, China)
- P1-25. A rapid, high-throughput AAV purification via a novel affinity spin-column system with benchtop centrifugation
Xiaolong Cai (PurProX, GeneMedi Biological Technology Co., LTD., Shanghai, China)
- P1-26. Forge Biologics 社向け高生産性 AAV 生産培地開発とスケールアップ検証
落合 七彩 (味の素株式会社 バイオ・ファイン研究所マテリアル&テクノロジーソリューション研究所 バイオ医薬培地グループ)
- P1-27. 培地添加剤による迅速で簡便な AAV 生産性および Full vector 比率向上
野辺 愛耶 (味の素株式会社 バイオ・ファイン研究所)
- P1-28. AAV9 の選択的精製を目的とした、塩基安定性・温和溶出条件に対応するアフィニティリガンドのスクリーニングおよび開発
荒井 千恵 (アストレア バイオセパレーションズ 研究開発部門/バイオタージ 研究開発部門)
- P1-29. Impact of Transfection Optimization on AAV Purification Performance and Vector Quality
Ekaputra Ramadhani (The University of Osaka Graduate School of Engineering)
- P1-30. Development of a Continuous, Integrated Platform for AAV Production and Purification
Yuki Higuchi (YMC CO., LTD. R&D Department)
- P1-31. 「天然由来ポリマー」を原料とする新規遺伝子導入剤を用いた AAV ベクター生産
井上 仁志 (積水化学工業株式会社 R & D センター 先進技術研究所)
- P1-32. レンチウイルスベクター製造における不純物低減を目的とした精製プロセスの開発
熊野 祐香 (タカラバイオ株式会社 CDM センター第 5 部)
- P1-33. DESIGN AND PRODUCTION OF TARGETED LENTIVIRAL VECTORS WITH ENHANCED T-CELL SPECIFICITY
Moon-IL Kang (VIROCELL)
- P1-34. ヒト羊膜上皮由来細胞株 HAT 細胞を用いた SeV ベクター産生系の開発
佐伯 晃一 (株式会社レプリテック 研究開発部)
- P1-35. 実用化に向けた腫瘍溶解性ウイルスの製造工程検討
相良 京 (大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 未来医療センター)
- P1-36. Simian Adenovirus を基盤とした新規アデノウイルスベクターの構築と特性評価
力武 舞夢 (一般財団法人阪大微生物病研究会 (BIKEN 財団) 次世代ワクチン開発研究センター/大阪大学大学院 薬学研究科)
- P1-37. RetroNectin 及び抗 CD3/ 抗 CD28 抗体プレコートの G-Rex を活用した高効率 CAR-T 細胞製造プロセス
天石 泰典 (タカラバイオ株式会社 CDM センター第 3 部)
- P1-38. クロナリティ解析による遺伝子導入細胞製剤の品質評価
金森 光広 (タカラバイオ株式会社 遺伝子解析センター)

- P1-39. Calcr ナノボディと Pax7 エンハンサーを用いた筋衛星細胞での遺伝子操作法の開発
森 大輝 (大阪大学 薬学部 薬学科)
- P1-40. 5' -3' UTR 相補性により環状 RNA 構造を模倣した Circular-like mRNA 設計の発現特性評価
鷹巢 篤志 (株式会社シンプロジェン 医療ビジネスユニット)
- P1-41. MiniVec プラスミド, AI プロモーター設計・包括的ベクター最適化 CliniVec における遺伝子細胞治療の有効性・安全性・製造性の向上戦略
亦勝 実穂 (ベクタービルダー.)
- P1-42. Development and application of a novel conformation-specific anti-biotin antibody resistant to free biotin interference
Zhang Peng (SOLIDEX, GeneMedi Biological Technology Co., LTD. Shanghai 201321, China.)
- P1-43. IQSEC2 欠損マウスの社会行動異常に対する AAV を用いた遺伝子治療法の開発
鈴木 (香山) 絵美 (信州大学 医学部)
- P1-44. ヒト病態に類似したデュシェンヌ型筋ジストロフィーマイクロミニブタモデルの確立と遺伝子治療応用の検討
佐藤 逸美 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 遺伝子疾患治療研究部)
- P1-45. ZFN を用いた RHO 網膜色素変性症に対する変異非依存型遺伝子挿入ゲノム編集治療製剤の開発
大西 暁士 (株式会社 VC Gene Therapy 研究開発部/理化学研究所 バトンゾーン研究推進プログラム/神経幹細胞研究チーム/立命館大学 総合科学技術研究機構/神戸アイセンター病院 研究センター)
- P1-46. Development of a KDM5B-Expressing DNA Payload Inflammation-Targeted Nanoparticle for Promoting Cardiomyocyte Proliferation Post-Myocardial Infarction
Chia-Hsiung Cheng (Taipei Medical University Department of Biochemistry and Molecular Cell Biology, School of Medicine, College of Medicine)
- P1-47. ホスホリパーゼ PLA2G6/ iPLA2 β の肝臓特異的な発現抑制による糖・脂質代謝異常の改善
清水 かほり (大阪大学 大学院薬学研究科)
- P1-48. リン脂質代謝酵素 LPLAT7/LPGAT1 の肝臓特異的な高発現は、インスリン感受性を改善する
清水 かほり (大阪大学 大学院薬学研究科)
- P1-49. リゾリン脂質アシル転移酵素 LPLAT14 の肝臓特異的な高発現は初期の高脂肪食誘発性肝障害を抑制する
堀 翔 (大阪大学 大学院薬学研究科)
- P1-50. 3 日以内に高薬理活性の CAR-T 細胞を調製する方法
岸本 恵美 (AGC 株式会社 技術本部)
- P1-51. 閉鎖系自動培養装置を用いた CAR-T 細胞治療薬の自施設一貫製造システムの構築
小林 小百合 (大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部未来医療センター)
- P1-52. 抗 CD28 ウサギ抗体を用いた高い未分化性能を有する新規 T 細胞刺激剤の開発
十塚 祐輔 (富士フイルム和光純薬株式会社 バイオ技術センター)
- P1-53. 腫瘍指向性リポソームを用いた CART ワクチンと CAR-T 療法による複合免疫療法の開発
齋藤 章治 (信州大学医学部 小児医学教室/信州大学 遺伝子・細胞治療研究開発センター)
- P1-54. CD116 陽性骨髄系腫瘍に対する GMR CAR-T 細胞の FIH 医師主導治験
齋藤 章治 (信州大学医学部 小児医学教室/信州大学 遺伝子・細胞治療研究開発センター)
- P1-55. iPSC 由来マクロファージによるケモカイン制御を介した脳転移における抗腫瘍免疫の再構築
梶原 義典 (ハーバード大学医学大学院 プリガム・アンド・ウィメンズ病院 幹細胞・トランスレーショナル免疫療法センター/ハーバード大学医学大学院 プリガム・アンド・ウィメンズ病院 脳神経外科)
- P1-56. Engineering MSCs: Enhanced characteristics for Treating Inflammatory Conditions
Gokul Krishna S (Stempeutics Research Pvt Ltd, India Research and Development / Manipal Academy of Higher Education, India)
- P1-57. Co-transplantation of Hematopoietic Stem Cells and Highly Purified Rapidly Expanding Clones (REC) of Human Mesenchymal Stem Cells Rescued the Bone Pathology of MPS IVA Mice
Shunji Tomatsu (Nemours Children's Health)

- P1-58. 遺伝子改変細胞治療の実用化を見据えた生体採取間葉系幹細胞のプライマリー細胞培養系に対する汚染管理戦略
宮崎 有紀 (大阪大学医学部附属病院 未来医療センター)
- P1-59. Prevalence of Germline TP53 Variants in East Asians and Koreans Based on Population Genomic Databases
Jong Eun Park (Hanyang University Guri Hospital, Hanyang University College of Medicine Department of Laboratory Medicine)
- P1-60. オナセムノゲンアベパルボベク投与3年後に急性脳症を発症し重篤な経過を辿った脊髄性筋萎縮症Ⅰ型の1例
寺崎 英佑 (川西市立総合医療センター 小児科)

Poster Session 2 (E or J)

2026年7月25日(土) 13:30 ~ 14:20 展示会場

- P2-1. ネイティブ蛍光検出を利用した CE-SDS 法による AAV カプシドプロテイン分析
加藤 尚志 (株式会社エービー・サイエックス アプリケーションサポート部)
- P2-2. 一本鎖 DNA 分子量マーカーの開発とマイクロチップ電気泳動システムを用いた AAV ウイルスゲノムの分析
小林 慎一郎 (株式会社 島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE)
- P2-3. AAV ベクター高産生可能な AAV One-Vector
成木 弘明 (タカラバイオ株式会社 製品開発センター第2部)
- P2-4. AAV ベクター製造における高塩耐性エンドヌクレアーゼ NucleoGone™ Endonuclease, Cold- and Salt-active の性能評価
上田 紗百里 (タカラバイオ株式会社 製品開発センター第2部)
- P2-5. 遺伝子治療原薬におけるプラットフォーム SEC 分析法 AAV, LNP および核酸分析例
岩崎 裕子 (日本ウォーターズ株式会社 化学製品事業部)
- P2-6. コクサッキーウイルス B 群 3 型を用いた食道癌に対する腫瘍溶解性ウイルス療法の開発
佐藤 和秀 (東京慈恵会医科大学 悪性腫瘍治療研究部)
- P2-7. 受容体標的化腫瘍溶解性ヘルペスウイルスの製造技術開発
鈴木 拓真 (株式会社 Good Hero Therapeutics 研究開発部)
- P2-8. 口腔癌に対する腫瘍溶解性ウイルスの細胞死誘導機構の解明
長野 晴紀 (九州大学大学院 歯学研究院 口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野)
- P2-9. クリスタリン網膜症モデルマウス治療モデルの樹立
村上 祐介 (九州大学 眼科)
- P2-10. 近赤外光スイッチタンパク質によるゲノム遺伝子活性化システム
中嶋 隆浩 (神奈川県立産業技術総合研究所「光スイッチ医療実証」グループ/東京大学大学院総合文化研究科 生命環境科学系)
- P2-11. Xenium Prime 5K を用いたヒト子宮頸がん組織のウイルス遺伝子の検出
佐藤 勇次 (10x Genomics Science and Technology Advisor)
- P2-12. 選択的な翻訳開始阻害による内皮間葉転換の抑制
山本 彩葉 (九州大学 大学院医学研究院 薬理学分野)
- P2-13. ウイルスベクター製造・遺伝子細胞治療用大型プラスミド DNA 精製のための反転構造モノリス担体
栗原 史成 (バイオクロマトグラフィックス株式会社 セールス&マーケティング)
- P2-14. Tim4 タンパク質を利用したシュードタイプ非依存性の高純度レンチウイルス精製材開発
羽場 亮太 (富士フイルム和光純薬株式会社 バイオ技術センター/富士フイルム株式会社 バイオサイエンス&エンジニアリング研究所)
- P2-15. GMP 環境下における超遠心分析データ解析システムの開発
丸野 孝浩 (株式会社ユー・メディコ 分析事業本部)

- P2-16. Automated Testing for Copy Number Variants using Long-read Sequencing for Genomic Stability Assessment in Regenerative Medicine
John Clyde Co Soriano (H.U. Group Holdings Bioinformatics Section)
- P2-17. Performance Evaluation of an Automated and Rapid Mycoplasma Detection for CGT Products with Audit-Ready Compliance
Zi Qin (Huzhou Shenke Biotechnology, Huzhou, China Research & Development)
- P2-18. AAV ダウンストリームプロセスの最適化
赤井 祐介 (メルク株式会社 プロセスソリューションズ事業本部)
- P2-19. アデノ随伴ウイルスベクター精製工程におけるタンパク質不純物の評価
古田 勇馬 (大阪大学 大学院工学研究科生物工学専攻)
- P2-20. アデノ随伴ウイルスベクター製造における陰イオン交換クロマトグラフィー分離ピークの特性解析
津中 康央 (大阪大学 大学院工学研究科)
- P2-21. 不純物とコストの低減：AAV バイオプロセスの清澄化工程におけるファイバー型クロマトグラフィー導入によるメクレアーゼ削減の影響に関するケーススタディー
千賀 一徳 (ライフテクノロジーズジャパン株式会社 フィルター製品事業部)
- P2-22. AAV9 と標的受容体を連結する新しいエンゲージャーの開発
三原 恵美子 (大阪大学蛋白質研究所 分子創製学研究室)
- P2-23. 新規ペプチドリガンドを用いた温和溶出およびアルカリ CIP 耐性を有する AAV9 精製材
石止 貴将 (富士フィルム和光純薬株式会社 バイオ技術センター)
- P2-24. 分割した Rep 遺伝子と Cap 遺伝子を搭載した統合型プラスミドによる AAV ベクター生産系の開発
西村 勇哉 (株式会社シンプロジェン 医療ビジネスユニット)
- P2-25. 電荷検出質量分析による AAV および LNP 内の核酸ペイロードの特性解析
矢田 絵都子 (日本ウォーターズ株式会社 マーケティング本部)
- P2-26. 新規ヒト由来細胞株 HAT によるアデノ随伴ウイルスベクターの製造と包括的な特性解析
松下 青葉 (株式会社ユー・メディコ 製造事業本部)
- P2-27. シングルトランスフェクション法による AAV ベクター製造：品質特性解析と統合型プラスミドの有用性
大概 久美子 (株式会社シンプロジェン 医療ビジネスユニット)
- P2-28. 効果的な免疫誘導を目指した新規 AAV ベクターワクチンの構築と有効性評価
菅生 健 (東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野)
- P2-29. AAV ベクター各血清型の安定性に対するイオン強度および pH の影響の系統的解析：イオン強度の支配的役割
渋谷 理紗 (大阪大学 大学院工学研究科)
- P2-30. モジュール構造化した統合型プラスミドによる AAV ベクターの高効率生産系の検討
牧田 尚樹 (株式会社シンプロジェン 医療ビジネスユニット)
- P2-31. 分析用陰イオン交換クロマトグラフィーを用いた直交的特性評価に基づく組換えアデノ随伴ウイルスの強制分解試験
楊 卓倫 (大阪大学 大学院工学研究科)
- P2-32. アデノ随伴ウイルスベクターを用いて、神経節・神経細胞種特異的に末梢神経活動を操作する技術の開発
牟禮 彰 (大阪大学 薬学部薬学科神経薬理学分野)
- P2-33. AAV ベクター製造における清澄化および精製工程の資材・機器の性能評価と工程適用性の検討
桑原 寿江 (株式会社ユー・メディコ 製造事業本部)
- P2-34. 新規ヒト細胞株 HAT を用いた AAV ベクターの高品質生産法の検討
朝比奈 瞭 (株式会社ちとせ研究所 Tech & Biz Development Div.)
- P2-35. ELEVECTA™ cell lines: re-engineered stable AAV producer cell lines for high productivity and quality attributes
Yosuke Inoue (Virus Vector Workflow Development Leader, Cytiva)
- P2-36. Enhancement of rAAV production using HyClone™ boost expression supplement
Benben Song (Global Life Sciences Solutions USA LLC)

- P2-37. バイオレイヤー干渉法を用いたレンチウイルスベクターの迅速物理的力価測定法
小張 夕景 (東京大学医科学研究所 遺伝子・細胞治療センター 分子遺伝医学分野／一般財団法人 医科学研究推進財団)
- P2-38. 脂質ナノ粒子を用いた Ex-vivo ヒト初代 T 細胞の遺伝子編集およびリガンド修飾による T 細胞標的化
井上 皓太 (富士フイルム株式会社 バイオサイエンス & エンジニアリング研究所)
- P2-39. 高品質の mRNA 医薬品・ワクチンの開発を可能にする新技術の開発 —m RNA 配列設計、dsRNA & pppRNA 不純物最小化、臓器選択的脂質ナノ粒子—
吉田 哲郎 (株式会社 ARCALIS 事業開発部／株式会社 ARCALIS 開発本部)
- P2-40. 分岐アミド型イオン化脂質 LNP の設計と新生仔マウス遺伝子ノックイン
佐藤 悠介 (北海道大学 大学院薬学研究科)
- P2-41. High-Throughput Optimization of CRISPR/Cas Engineering Using the ExPERT DTx™ Electroporation Platform
Masa Ohishi (MaxCyte, Inc.)
- P2-42. サイトカイン遺伝子搭載 35 型アデノウイルスベクターによる抗腫瘍効果の検討
中垣 貴登 (大阪大学 薬学部薬学科)
- P2-43. スタチン系薬剤はゲムシタビン耐性膵臓癌に対する p53 武装化腫瘍融解ウイルス療法の治療効果を増強する
Keiichiro Oshima (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学)
- P2-44. Simian Adenovirus を基盤とした新規腫瘍溶解性アデノウイルスの開発
木俵 爽太 (大阪大学大学院 薬学研究科)
- P2-45. STING アゴニストと腫瘍溶解性ワクシニアウイルスによる新規脳腫瘍治療法の開発
村松 佑亮 (名古屋大学 大学院医学系研究科癌免疫治療研究室／名古屋大学 大学院医学系研究科脳神経外科)
- P2-46. Wilms' tumor 1 抗原発現ビフィズス菌と免疫チェックポイント阻害薬の併用は悪性胸膜中皮腫マウスの腫瘍増殖を抑制した
松本 萌楓 (神戸大学 大学院科学技術イノベーション研究科科学技術イノベーション専攻先端医療・製薬学分野)
- P2-47. レトロウイルスベクター産生ヒト羊膜由来間葉系幹細胞による生体内腫瘍組織への遺伝子導入能力の検証
山崎 吉之 (日本医科大学 分子遺伝医学)
- P2-48. 固形がんへの遺伝子治療効果増強を目的とした細胞間拡散タンパク質の利用
小泉 直也 (昭和薬科大学 薬剤学研究室)
- P2-49. 扁平上皮癌の転移形質獲得における Rgs3 isoform switch を介した細胞遊走制御機構の解析
大河原 一真 (九州大学大学院医学研究院 薬理学分野／九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科)
- P2-50. ムコ多糖症 II 型に対する T 細胞を標的とした遺伝子治療の可能性の検討
中野 若葉 (東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 遺伝子治療研究部／東邦大学 理学部 生物学科)
- P2-51. Strategic Paradigm Shifts in Gene Therapy for Krabbe Disease: A Comparative Analysis of AAV Serotypes, Delivery Routes, and Combinatorial Strategies
Dar-Shong Lin (MacKay Memorial Hospital, Taipei, Taiwan Dept. of Translational Medicine / College of Medicine, MacKay Medical University Dept. of Medicine / MacKay Memorial Hospital, Taipei, Taiwan Dept. of Pediatrics)
- P2-52. アジュバント併用皮内ジェットインジェクションはキャリアフリー mRNA ワクチンの安全性を維持しつつ感染防御能を増強する
石川 紬一 (東京科学大学 先端ナノ医工学分野／ナノ医療イノベーションセンター)
- P2-53. アデノウイルスベクターの鼻腔内投与における I 型 IFN シグナルを介したワクチン効果減弱メカニズムの解明
仲谷 隼 (大阪大学 大学院薬学研究科)
- P2-54. メソッドスカウティングを用いた陰イオン交換クロマトグラフィーによる rAAV 完全粒子・空粒子の分離条件最適化
赤木 美穂 (株式会社島津製作所 分析計測事業部 Solutions COE)
- P2-55. 電荷検出質量分析および FFF-MALS を用いた脂質ナノ粒子ワクチンの特性解析：多次元アプローチ
廣瀬 賢治 (日本ウォーターズ株式会社 バイオ事業部)

- P2-56. クリーフストラ症候群の遺伝子治療を目指した基礎研究における患者市民参画（PPI）導入の利点と課題 —患者家族・基礎研究者・研究倫理専門家の視点から—
楠瀬 まゆみ（理化学研究所 生命医科学研究センター）
- P2-57. 取り下げ
- P2-58. 集約型遺伝子改変細胞治療のエコモデルシステムの構築へ向けた取り組み
小林 小百合（大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部未来医療センター）
- P2-59. Patient-derived skin organoids for modeling STAT1 gain-of-function disease
Pengyu Chen（Department of Medicine, The University of Hong Kong）

Reports on the ESGCT Spring School 2026（E）

2026 年 7 月 23 日（木）13:55 ～ 14:10 第 1 会場

座長：Alberto Auricchio（University in Naples “Federico II”）
山形 崇倫（栃木県立リハビリテーションセンター 小児科）

ESS-1. 小牧 ゆい（東京大学医科学研究所遺伝子・細胞治療センター分子遺伝医学分野）

ESS-2. ウナガンシャガイ アディヤ（自治医科大学小児科学）